

# キリスト教保育

年主題

ともにつむぎだす

（希望の中で）

子どもの健康

子どもの目

丸尾敏之

論説

保育のぶれない軸と、揺れ続ける実践について(1)

高田憲治

小論

しあわせな読みあいの時間

村中李衣



# 2

2024 FEB.

MARCO  
CANTINI

友に対して悪意を耕すな。

新共同訳聖書 箴言3：29

今月の聖書の言葉から、友だちと共に、いかに生きるかについて学びたいと思います。

口語訳聖書では「隣り人」とあるのが新共同訳においては「友」と、「悪を計ってはならない」が「悪意を耕すな」と、翻訳に違いがあります。この動詞は、通例、「刻み込む」「耕す」という意味で使われ、比喩的に「たくらむ」の意味で用います。新共同訳は「耕す」と翻訳し、悪い意味で使われているのです。

種子を蒔いたり、苗を植える前に田畑を鋤き返したりすることを「耕す」（耕作）というわけですから、「悪意を耕す」という表現も、ある意味では比喩的であります。あなたの友を傷つけるようなどんな事もたくらむな、と教えているわけです。私たちに、「友」「隣り人」と共に生きるとは、どういうことかを問いかけている言葉です。

「友」「友情」について学んでみましょう。お互いの信頼と気心の合った関係を「友情」といい、旧約聖書サムエル記上には、ダビデとヨナタンの友情の物語が語られています。また、箴言（17：17、18：24、27：6、27：17）は、特に誠実と確固を強調しています。

友をもつということは、生きるために刺激となるのです。

イエスさまは私たちを「友」と呼んでくださったのです（ヨハネによる福音書15：14～15）。イエスさまの友であるということは、お互いに愛し合うことであります。そして、その愛の至高の表現は、自分の友のために生命を捨てるという、人の喜んでする気持であると教えておられます（ヨハネによる福音書15：13）。

子ども時は、『子どもには、今の時を楽しく、面白く、豊かに遊ぶ大切な期間であるという視座』に立って、『「人とかかわる力を養う」場を整えていく』ことが大切です。保育者の責任を感じるのです。

「人はその友によって研磨される」（箴言27：17）とあるように、子ども同士の関わり合いの中から人格形成がなされていきます。その根底には、愛、信頼感が育ってほしいと思います。

（宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長）  
1990年『キリスト教保育』誌2月号より

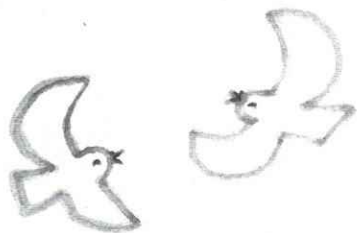
一部省略、要約してあります。

※1989年版『キリスト教保育指針』より

幼子とともにキリストへ

# キリスト教保育

第659号2月号



年主題

## ともにつむぎだす

～希望の中で～

幼子とともにキリストへ  
目次

〈巻頭言〉キリスト教の学校で 藤舎理生

〈論説〉

保育のぶれない軸と、

揺れ続ける実践について(1) 高田憲治

図書紹介 林里奈 横山一乃

〈小論〉

しあわせな読みあいの時間 村中李衣

聖書に聞く・お話 山本香織

### 【カリキュラム】

2月 月のねがい表

心にとめて 犬童れい子

実践報告 永信保育園

実践からの学び 稲付容子

心にとめて 高田憲治

実践報告 相模翠ヶ丘幼稚園

実践からの学び 松浦浩樹

〈連載〉子どもの健康 丸尾敏之

私たちの園では 小出肇

〈連載〉キリスト教の行事 めぐみ幼稚園

絵本のとびら 助川賀子

礼拝のお話 澤田直子

子どもと賛美するために

目福口福耳福 西尾純子

風 山根由美子 編集子 東義也

連盟だより

表紙絵  
カット

田中旗子  
中誠治子 こだいみのり  
松成真理子 金井ユリ

44 47 48 57 58 59 60

23 24 26 31 32 34 39 40 43

